

活動報告（2010年11月～2011年10月）

2011年11月5日
運営委員会・事務局

1. 加盟状況と運営体制

（1）加盟組織数

2011年11月の時点で加盟組織数は93になった。

【資料1：地域研究コンソーシアム加盟組織一覧】

（2）理事・運営委員

2010年4月から第四期体制（2010年度～2011年度）が開始された。

第四期の幹事組織は以下の12組織。

- ・北海道大学スラブ研究センター
- ・東北大学東北アジア研究センター
- ・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- ・上智大学アジア文化研究所
- ・愛知大学国際中国学研究センター
- ・京都大学東南アジア研究所
- ・京都大学地域研究統合情報センター
- ・京都外国語大学京都ラテンアメリカ研究所
- ・人間文化研究機構国立民族学博物館
- ・大阪大学グローバルコラボレーションセンター
- ・大阪大学世界言語研究センター
- ・日本マレーシア学会

【資料2：理事会および運営委員会の構成】

理事会、運営委員会、各部会・研究会の開催

昨年11月6日から本年11月5日までの間に、理事会2回、メール理事会5回、運営委員会4回を開催した。各部会もそれぞれ1～2回の会合をおこなった。この他に、メーリングリストを通じた意見交換が随時実施されている。

【資料3：理事会・運営委員会・各部会の開催状況】

運営委員会の部会・研究会

- ・情報資源部会：各地に散在する地域研究情報資源を束ねて研究に利用
- ・方法論研究会：「地域の事情通」を越えて現代世界に意味がある地域研究を検討
- ・研究企画部会：JCASのネットワークを利用した加盟組織横断型の研究を企画
- ・次世代支援部会：公募による次世代研究者（研究員・助教等）の研究支援
- ・研究交流促進部会：所属組織の枠を超えた研究者や実務者の交流を促進
- ・年次集会部会：全加盟組織が1年に1度集まる年次集会を企画・実施
- ・社会連携部会：地域研究の知見を災害や紛争などの現場での実践に利用
- ・広報部会：地域研究情報ポータルサイトの管理やニューズレターによる発信
- ・和文雑誌部会：学術雑誌『地域研究』の編集を通じた研究成果の発信
- ・JCAS賞部会：地域研究の発展に大きな貢献があった個人・組織を顕彰

2. 各活動分野の進捗状況と課題

2011年度の活動の柱

- (1) 地域研究の設計・・・地域研究の多様な素材や資源を束ねて地域研究を設計
- (2) 共同研究の推進・・・加盟組織の参加による共同研究の推進
- (3) 学界との連携・・・日本学術会議や学会との研究連携
- (4) 社会への還元・・・国際協力やビジネス業界との人材交流
- (5) 活動内容の発信・・・活動内容や成果を広く発信

(1) 地域研究の設計

(1)「地域の知」シンポジウムの開始（運営委員会）

現代世界の諸課題に対応するため、また、そのために必要な基礎研究を進めるため、所属組織の壁を越えて地域研究者が集まる研究集会を「地域の知」シンポジウムとして実施することとなった。2011年度は「地域の知」シンポジウムを1回行った。（共同研究の推進の項目を参照。）

(2)情報資源セミナーの実施（情報資源部会）

情報資源部会の主催によりデータベース構築ガイダンスを実施した。

期日：2011年10月1日

会場：京都大学地域研究統合情報センター・セミナー室

共催：CIAS 共同研究「地域情報学プロジェクト」

プログラム：

- (1)データ作成の作法および写真資料のデジタル化手法（関野樹：地球研）
- (2)本・雑誌等の目録データの構築法（原正一郎：京大地域研）
- (3)地図データの構築法（平松晃一：名古屋大学）
- (4)写真を主としたコレクションデータ（五島敏芳：京大総合博物館）
- (5)総合討論（地域研からのデータベース公開、問題の検討）

(3)地域研究方法論研究会の開催（地域研究方法論研究会）

地域研究方法論研究会では、研究班及び巡回研究会の会場校を募集した。京都大学で2回の研究会を行った。また、今年度までの活動を踏まえて、雑誌『地域研究』の第12巻第2号で地域研究方法論特集を組む備を進めている。

期日：2011年4月22日

会場：京都大学東南アジア研究所東棟1階会議室

話題提供者：

- (1)山本博之（京都大学地域研究統合情報センター）
- (2)鈴木遙（京都大学東南アジア研究所研究員）

期日：2011年5月27日

会場：京都大学東南アジア研究所東棟1階会議室

話題提供者：

- (1)西芳実（京都大学地域研究統合情報センター）

(2) 共同研究の推進

(1) 「地域の知」シンポジウム

2010年末から2011年にかけてアラブ諸国で発生した「政変・民主化」の実態を明らかにするとともにそれが世界に対して持つ意味を検討するため、世界の各地域を専門とする地域研究者によるシンポジウム「中東から変わる世界」(4月15、16日、京都大学稲盛財団記念館)を開催した。

「地域の知」シンポジウム「中東から変わる世界」

趣旨：

チュニジアの「ジャスミン革命」に始まる中東地域の政治情勢の流動化は、今後の世界のあり方を確実に変えるものである。中東地域では権威主義体制がなくならないという認識はすでに過去のものになった。国際社会はイラク空爆が安定的な民主化をもたらさなかったという経験を持ちながらリビア空爆に踏み切った。中東情勢の変化とそれへの対応は、これまでも何度か世界秩序の再編のきっかけをつくってきた。現在私たちが直面している事態はどのような世界に私たちを導くのか。中東・イスラム地域だけの問題として捉えるのではなく、現代世界の全体にかかわる問題として考えたい。

期日：2011年4月15日(土)、16日(日)

会場：京都大学稲盛財団記念館大会議室

構成：

開会挨拶 宮崎恒二(地域研究コンソーシアム会長/東京外国語大学)

趣旨説明 西芳実(京都大学)

第1セッション(4月16日)

司会 家田修(北海道大学)

パネリスト

酒井啓子(東京外国語大学)、高原明生(東京大学)、廣瀬陽子(慶應義塾大学)、
藤原帰一(東京大学)、武内進一(JICA研究所)、恒川恵市(政策研究大学院大学)

総括 林行夫(JCAS事務局/京都大学)

第2セッション(4月17日)

司会 西芳実(京都大学)

パネル1「軍と政変」

鈴木恵美(早稲田大学)、増原綾子(亜細亜大学)、菊地信之(外務省)

パネル2「宗教と社会福祉」

横田貴之(日本大学)、見市建(岩手県立大学)、飛林良平(外務省)

パネル3「越境する人と情報」

錦田愛子(東京外国語大学)、高岡豊(中東調査会)、塚原信行(京都大学)

総合討論

閉会挨拶 山本博之(地域研究コンソーシアム運営委員長/京都大学)

主催：

地域研究コンソーシアム

京都大学地域研究統合情報センター

共催：

京都大学地域研究統合情報センター共同研究「ヒューマン・パワー時代の外交・安全保障の現場と地域研究」

(2)年次集会・シンポジウム（年次集会部会・研究企画部会・次世代支援部会）

概要

2011年度より年次集会を2日間の開催とし、1日目は総会（年間の活動報告）および一般公開シンポジウム、2日目は次世代ワークショップおよび会場校企画を実施することとなった。総会では地域研究コンソーシアム賞の授賞式も行われる。

次世代ワークショップ及び各種公募プログラムの採択者・実施者は活動内容を示すポスター（A2判）を作成し、年次集会会場に掲示する。

また、今年度は年次集会の前日に関連シンポジウムを行い、全体としてコンソーシアム・ウィークを実施する。

総会（1日目・第1部）

期日：2011年11月5日 10:00-11:45

会場：大阪大学文系総合研究棟（302講義室）

構成：

司会 帯谷知可（JCAS事務局長／京都大学地域研究統合情報センター）

(1)会長挨拶 宮崎恒二（JCAS会長／日本マレーシア学会）

(2)新規加盟組織紹介 帯谷知可

(3)活動報告 山本博之（JCAS運営委員長／日本マレーシア学会）

(4)次世代ワークショップ採択者報告

(5)地域研究コンソーシアム賞授賞式

一般公開シンポジウム（1日目・第2部）

一般公開シンポジウムは「『情報災害』からの復興—地域の専門家は震災にどう対応するか」とし、11月5日（土）に大阪大学豊中キャンパスで開催する

「情報災害」からの復興—地域の専門家は震災にどう対応するか—

趣旨：

東日本大震災には、自然災害（地震・津波）や技術災害（原発事故）だけでなく、情報や知の基盤が損なわれる「情報災害」の側面もある。マスコミや学術研究が発信する情報や知は常に正しいという信頼が揺らぎ、「いま、ここ」でどう役に立つかわかりが問われている。地域研究も、学術研究の一部であり、当然例外ではない。ただし、その一方で、常に現場から現実を捉えようとしてきた地域研究には、既存の研究分野がこれまで対象としてこなかった事象を積極的に意味づけることで、その専門分野の有効性を立て直す力がある。本シンポジウムでは、東日本大震災において地域研究者が「いま、ここ」でどのように役立ちうるかを考えるとともに、「いま、ここ」から時間や空間を広げて、地域研究の知が災害対応と直結した学術研究とどのように結びつきうるかを検討し、地域研究の専門性を磨くことによる災害対応について考えてみたい。

期日：2011年11月5日 10:00-11:45

会場：大阪大学文系総合研究棟（302講義室）

構成：

第1セッション

趣旨説明 上野稔弘（東北大学東北アジア研究センター）

(1) 東日本大震災における JCAS 加盟組織の活動紹介

報告 1 長谷部美佳 (東京外国語大学)

「多言語情報の発信について」

報告 2 寺田勇文 (上智大学アジア文化研究所)

「在日フィリピン人被災者支援について」

(2) 震災現場での活動

報告 1 平川新 (東北大学東北アジア研究センター)

「東日本大震災と歴史資料のレスキュー」

報告 2 吉富志津代 (大阪大学)

「阪神淡路大震災と東日本大震災の支援を通じて」

第 2 セッション

趣旨説明 山本博之 (京都大学地域研究統合情報センター)

報告 1 西芳実 (京都大学地域研究統合情報センター)

「戦争の時代から人道支援の時代へ—スマトラにおける異文化接触の変遷から」

報告 2 森山工 (東京大学大学院総合文化研究科)

「日常性とカタストロフィー—マダガスカル地域研究から」

報告 3 川喜田敦子 (大阪大学大学院言語文化研究科)

「戦災と復興をどうとらえるか—戦後ドイツの記憶と記録」

コメント 1 峯陽一 (同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科)

コメント 2 林勲男 (国立民族学博物館)

コメント 3 大矢根淳 (専修大学人間科学部)

全体討論

閉会挨拶

次世代ワークショップ (2 日目)

今年度から年次集會を 2 日間の開催とし、2 日目は次世代ワークショップおよび会場校企画を行うこととなった。今年度は 2 会場に分けて以下の 2 つの企画を実施する。

イスラームが経済に与えるインパクト

日時：2011 年 11 月 6 日 (日)、14:00-18:00

場所：大阪大学豊中キャンパス文系総合研究棟 302 号室

企画責任者：福島康博 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

構成：

趣旨説明 福島康博

第 1 セッション「ムスリム女性のファッション」

大川真由子 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

塩谷もも (島根県立大学短期大学部)

第 2 セッション「ハラール食品」

川畑亜瑠真 (京都大学大学院)

今堀恵美 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

第 3 セッション「人の移動」

安田慎 (京都大学大学院)

福島康博

第 4 セッション「イスラーム金融」

<p>川村藍（京都大学大学院） 長岡慎介（京都大学） 総合ディスカッション</p>
<p>「トランスナショナルな子どもたちの教育を考える—課題解決の方法を探る」 *要事前登録 日時：2011年11月6日（日）、14:00-18:00 場所：大阪大学豊中キャンパス ステューデントコモンズ2階 セミナー室 企画責任者：矢元貴美（大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程） 構成： 開会挨拶・プログラム説明・前回ワークショップの成果 グループ別ワーク ブレインストーミング、対応策（行動計画）を考える、提言に向けてのまとめ 全体共有 招聘参加者（キーパーソン）からのコメント</p>

関連シンポジウム（年次集会前日）

今年度の年次集会では、年次集会前日に大阪大学の主催によるシンポジウムを JCAS 年次集会関連シンポジウムとして実施した。

<p>地域研究のだまし絵—「グローバル化」の後に「地域」への眼差しを再考する</p> <p>日時：2011年11月4日（金）、15:30-19:00 会場：大阪大学豊中キャンパス文系総合研究棟 301 講義室 趣旨： 「グローバル化」という言葉は、私たちが研究対象とする「地域」が普遍的で自明な単位でないことに気づかせてくれた。しかし、それはただ「地域」を地球という次元に置き換えて「地域」への眼差しを問い直せばことたりるといった次元の問題ではもちろんない。「グローバル化」という言葉は、近代以降の学知が依拠してきた「地域」を認識する枠組みがある種のだまし絵として描かれてきたいことを明らかにしている。 本シンポジウムでは、「地域」認識の枠組みそのものを再考するうえでの有力なヒントを含む4つの研究を手がかりに、近代的な「地域」認識の枠組みを一方では現在と過去の対比から、他方では見る者と見られる者の対比から相対化し、それを取り去った後に見える「地域」への眼差しのあり方（あるいはもう一つのだまし絵）について何らかの展望を得たいと考えている。 構成： 司会 宮原暁（大阪大学グローバルコラボレーションセンター准教授） 報告1 古谷大輔（大阪大学世界言語研究センター准教授） 報告2 齋藤剛氏（神戸大学大学院国際文化研究科准教授） 報告3 山根聡氏（大阪大学世界言語研究センター教授） 報告4 床呂郁哉（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授） ディスカッサント 中川理（大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任准教授） 村上忠良（大阪大学世界言語研究センター准教授）</p>

(3)次世代支援ワークショップ（次世代支援部会）

概要

次世代研究者（博士課程後期の大学院生、各種研究員、助教など）のイニシアティブによるワークショップ／セミナーの企画を募集した。2011年度は、複数の幹事組織の協力によって採択件数を大幅に増やして募集を行い、6件を採択した。

所属組織の壁を超えた連携性、異なる専門領域の交流、地域研究にかかわる研究者および実務者（NGO・NPO等）による研究企画を奨励することにより、新しい視点にたった次世代研究者の企画から、既存の枠組をこえた地域研究のあり方、研究と実践の関わりがうまれることが期待される。

企画の募集

京都大学地域研究統合情報センター、京都大学東南アジア研究所、北海道大学スラブ研究センターの3つの幹事組織の協力のもと、募集件数を大幅に増やして募集を行った。

開催日・開催会場やテーマによって「年次集会開催枠」「東南アジア地域研究枠」「境界研究（ボーダースタディー）枠」「自由課題・自由開催枠」の4つの公募種類に分けて企画を募集した。4つの枠の概要は以下の通り。

- ①年次集会開催枠：JCAS年次集会の一部として開催するワークショップ企画の募集。京都大学地域研究統合情報センターが共催。募集件数は1件。
- ②東南アジア地域研究枠：東南アジア地域研究に関連する企画の募集。開催会場と開催日時は自由。京都大学東南アジア研究所が共催。募集件数は1件。
- ③境界研究（ボーダースタディー）枠：境界研究（ボーダースタディーズ）に関わる企画の募集。開催会場と開催日時は自由。北海道大学スラブ研究センターと北海道大学グローバルCOEプロジェクトが共催。募集件数は1件。
- ④自由課題・自由開催枠：従来と同様に、2011年度内に実施される研究企画。京都大学地域研究統合情報センターが共催。募集件数は2件。

選考結果

公募期間は2011年6月1日から6月30日までの1か月間とし、7月8日に部会のもとで選考委員会を開催し、以下の6件を採択した。

募集枠	企画題目	企画責任者（所属）
年次集会開催	イスラームが経済に与えるインパクト—イスラームの視点と経済の視点から	福島康博（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員）
東南アジア地域研究	東南アジアにおける「地域」とは何か	伊藤未帆（日本学術振興会・特別研究員／東京大学）
境界研究（ボーダースタディーズ）	文明の境界、政治の限界—比較の中のパレスチナ／イスラエル複合紛争	飛奈裕美（日本学術振興会・特別研究員／京都大学）
	「人間と動物の境界」は地域研究の対象たりえるのか—アフリカとメラネシアからの発信	田所聖志（東京大学大学院医学系研究科・特任助教）
自由課題・自由開催	地域研究とキャリアパス—地域研究者の社会連携を目指して	日下部尚徳（日本学術振興会・特別研究員／大阪大学）
	墓場で／から繋がる—墓石をめぐる学	小西公大（東京外国語大学・

	術的研究の可能性	特定研究員)
また、大阪大学による学内を対象とした公募が行われ、以下の1件を採択した。		
募集枠	企画題目	企画責任者(所属)
大阪大学	大阪のトランスナショナルな子どもたちの教育を考える	矢元貴美(大阪大学大学院人間科学研究科・博士後期課程)

※参考：2010年度採択企画(昨年度の年次集会後に実施したもの)

実施日	企画題目	企画責任者(所属)
2010年11月7日(日)	NGOの時代は終わったのかー成熟するアジアの市民社会と日本のNGOの未来	堀場明子(上智大学アジア文化研究所・研究員)
2011年1月29日(土)	トランスナショナルな子どもたちの教育を考える	矢元貴美(大阪大学大学院人間科学研究科・博士後期課程)
2011年1月9日(日)	来たるべき「ブラジル研究」にむけて	高橋慶介(一橋大学大学院社会学研究科・博士課程)
2011年1月22日(土)	イスラエル/パレスチナ地域をめぐる総合知の育成	今野泰三(大阪市立大学文学研究科・博士後期課程)

(4)公募プログラム(研究交流促進部会)

概要

JCAS加盟組織間の研究交流を促進するため、共同企画研究、オンデマンド・セミナー等の企画の公募を行った。募集は、春季募集(6月30日締め切り)と秋季募集(9月30日締め切り)の2回行った(秋季募集は一部項目のみ)。また、共同企画研究では、今年度実施する本企画の募集に加えて、来年度実施するための企画を練るための萌芽企画の募集も行った。

共同企画研究

複数のJCAS加盟組織が連携して企画・実施する研究企画。萌芽企画2件、本企画2件を募集した。春季募集では応募がなかった。秋季募集では萌芽企画を以下の1件を採択した。

種別	企画題目	申請者(所属)
萌芽	現代中国と東アジアの新環境	田中仁(大阪大学中国文化フォーラム・教授)

(3)学界との連携

(1)年次集会(年次集会部会)

地域研究コンソーシアムが年に一度開催する年次集会は、加盟組織と非加盟組織の別なく地域研究に関心を持つさまざまな組織や個人が集まり、地域研究に関する「出会い」をもたらす場を提供している。今年度より、年次集会を2日間開催とし、また、地域研究コンソーシアムとの共催企画のポスターセッションを設けるなど、「出会い」のための工夫を行っている。

(2)学会連携プログラム(研究交流促進部会)

JCAS 加盟組織と地域研究学会の研究交流を促進するため、学会連携企画の公募を行った。募集は、春季募集（6月30日締め切り）と秋季募集（9月30日締め切り）の2回行った。また、今年度実施する本企画の募集に加えて、来年度実施するための企画を練るための萌芽企画の募集も行った。春季募集では以下の本企画1件を採択した。秋季募集では応募がなかった。

企画：日本南アジア学会第24回全国大会におけるJCAS加盟組織共同による複数のセッション企画

申請者：秋田茂（日本南アジア学会／大阪大学文学研究科教授）

開催期日：2011年10月1日～2日

概要：日本南アジア学会の第24回全国大会において、JCAS加盟組織の共同により複数のセッションを企画する。プログラムは、①テーマ別セッション：Migration History around the Indian Ocean World since the Seventeenth Century および Reorganization of states in India、19世紀後半から20世紀初頭の地域社会におけるマールワリー・プレゼンス等、②共通論題：「イスラーム的世界としての南アジア—接触領域のダイナミズム」。

（4）社会への還元

（1）災害への対応（社会連携部会）

東日本大震災への緊急対応

- ・NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会が立ち上げた「東北地方太平洋沖地震多言語支援センター」の要請を受け、地震に関する情報を外国語に翻訳する外国語専門家を募集し、約900人の応募者から約300人分のリストを作成して紹介した。（募集期間：2011年3月13日～22日）
- ・東日本大震災の被災及び救援・復興に関する緊急情報を外国語で発信している機関及び個人についての情報を収集し、整理してJCASホームページ上で情報発信した。
<http://www.jcas.jp/stricken/disaster.html>（2011年3月22日公開）

「東日本大震災に伴う共同研究」の公募

- ・京都大学地域研究統合情報センターとの協力により、「東日本大震災に伴う共同研究」企画の公募を行った。
- ・テーマ1「東日本大震災の被害と復興に関する研究課題」、テーマ2「自由課題」についてあわせて2件程度募集し、6月末で応募を締め切った。社会連携部会で審査を行い、「自由課題」として以下の1件を採択した。
- ・「311被災後のディアスポラコミュニティにおけるコミュニケーションの総合的研究」（代表：中島成久）。助成期間は2年間。

タイ水害ならびにトルコ地震への対応

- ・2011年10月に全国的な洪水被害に見舞われたタイと2011年10月23日に発生した大地震により数百人の死者が出てトルコについて、被災および救援・復興活動に関する緊急情報を発信している機関および個人についての情報を収集し、整理してJCASホームページ上で情報発信した。
http://www.jcas.jp/stricken/post_2.html（2011年10月27日公開）

年次集会シンポジウム

- ・2011年度のJCAS年次集会シンポジウムでは研究企画部会と社会連携部会が合同で『情報災害』からの復興—地域の専門家は震災にどう対応するか』を企画した。(詳細は年次集会の項目を参照。)

(2)共同企画講義(研究交流促進部会)

地域研究の研究交流と社会への成果発信を促進することを目的とし、大学での講義等を生み出す新たな枠組みとして「共同企画講義」を設け、公募を行った。募集は、春季募集(6月30日締め切り)と秋季募集(9月30日締め切り)の2回行った。また、今年度実施する本企画の募集に加えて、来年度実施するための企画を練るための萌芽企画の募集も行った。以下の通り、本企画を1件、萌芽企画を1件採択した。

【本企画】

企画名：〈カタストロフィ〉を生きる—地域文化研究から見る災いの経験

申請者：西芳実(京都大学地域研究統合情報センター准教授)

実施期間：2011年度冬学期(2011年10月～2011年3月)

開催校：東京大学駒場キャンパス

担当教員：森山工(東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻/「人間の安全保障」プログラム)

概要：セルトーが言う意味での「異(い)なるもの」の噴出を〈カタストロフィ〉として捉え、ある特定の地域、特定の時代における社会が、みずからの期待可能性を裏切り、擾乱するものとして現出する〈カタストロフィ〉をどのように経験したのか、そしてその後の日常的秩序の再構築をどのように行い、それをどのような復興の過程として経験したのかを、地域文化研究という領域から考察する。

講師一覧：

牧紀男(京都大学防災研究所) * 東日本大震災と地域の再建

山本博之(京都大学地域研究統合情報センター) * 災害対応における「ぬいしろ」と「つながり」—スマトラの地震・津波災害を例として

山本理夏(特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン) * 東日本大震災の経験—NGOの視点から

本村凌二(地域文化研究専攻) ポンペイ最後の日

西芳実(京都大学地域研究統合情報センター) * 紛争の記憶・災害の記憶—死者の弔いから考える

森山工(地域文化研究専攻) 被植民地化というカタストロフィー—旧フランス植民地の経験から

鈴木啓二(地域文化研究専攻)、数森寛子(共生のための国際哲学教育センター(UTCP)) 文学はカタストロフィを描きうるか—ヴィクトル・ユゴーの場合

網野徹哉(地域文化研究専攻) カタストロフィとしてのアンデス征服

三谷博(地域文化研究専攻) カタストロフィの予測と記憶—日本から環太平洋・世界へ

福武慎太郎(上智大学外国語学部) * 紛争後の混乱期における難民理解のバイアス—東ティモールにおける住民投票後の騒乱と難民問題を事例に

東大作(国際社会科学専攻) トラウマを超え社会変革を目指す人々—犯罪被害者と戦争被害者の調査から

(* 地域研究コンソーシアム(JCAS)との連携による)

【萌芽企画】

企画名：最先端の地域研究者によるエスノグラフィ論特別講義

申請者：中川理（大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任准教授）

実施期間：2011年9月～2012年3月

開催校：大阪大学

概要：地域研究の重要な技法のひとつであるエスノグラフィ（民族誌）についての出張講義を大阪大学グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)の「フィールドワーク関連科目群」の一環として実施するため、JCASのネットワークと人材を活用した講師陣とシラバスを検討する。

(3) オンデマンド・セミナー（研究交流促進部会）

地域研究に携わる多様な研究・教育機関、学会などを結びつけ、研究交流と社会への成果発信を促進することを目的とし、加盟組織が共同で企画するシンポジウムやセミナー、講演会等を生み出す新たな枠組みとして「オンデマンド・セミナー」を設け、公募を行った。オンデマンド・セミナーの顔として3人の講師候補のプロフィールと可能な講演内容を明記したデータを作成し、HPおよびリーフレットで広報するとともに講師紹介希望者の募集を行った。

春季募集や秋季募集にあわせて広報を行ったほか、9月にはオンデマンド・セミナーの案内を京都市内の78団体（報道関係、自治体、博物館、国際交流に関連する機関等）に郵送して広報を行った。HP上でオンデマンド・セミナー講師のプロフィール登録を開始したが、今後さらに登録件数を増やす工夫が必要である。10月の時点で応募や問い合わせはなく、引き続き募集中。

なお、昨年度までオンデマンド・セミナーの枠内で開催されていたもののうち、非公募枠（JCASが開催経費の支援を行わないもの）については、今年度より共催企画として実施することになった。

(4) 共催企画

特殊言語やフィールド調査に必要な技能などについての講習会などのように、JCAS加盟組織が講師を提供する講習会を一般公開で行う企画などをJCAS共催企画として実施する。今年度は以下の通り2件を実施し、1件を実施予定である。

開催日	企画題目	申請者（所属）
2011年6月～ 2012年1月	民族誌映像ビデオ実習講座	高倉浩樹（東北大学東北アジア研究センター・准教授）
2011年10月 15日、16日	ジャウイ文献講読講習会	坪井祐司（日本マレーシア学会・運営委員）
2012年1月 21日	福祉と開発の人類学：ひろがる包摂空間とライフコース	内藤直樹（徳島大学・准教授）

(5) ビジネス界との人材交流（社会連携部会）

地域研究者のビジネス業界との人材交流のための予備調査に着手した。2011年2月に社会連携部会キャリアデザイン研究会が実施したワークショップ「キャリア・パスとしての社会貢献？—若手地域研究者の現状と社会連携の可能性」の報告書をJCASコラボレーション・シリーズ第2号として刊行した。

(6)JCAS 社会連携プロジェクト

- ・社会連携活動の担い手および分野を大幅に広げるため、JCAS 加盟組織の社会連携活動を「JCAS 社会連携プロジェクト」として募集している。社会連携部会はそのプロジェクトの調整・促進役を果たすことで、加盟組織が行う社会連携に関わる活動どうして交流を深め、知識や経験を共有すると同時に、地域研究による社会連携のあり方を JCAS として発信していくことを目指す。
- ・現在の登録プロジェクトは以下の 2 件。
 - ・研究・教育＝NGO/NPO 人材交流プロジェクト（代表：石井正子）
 - ・キャリア・デザイン・プロジェクト（代表：堀場明子）

(5) 研究内容の発信

(1)和文雑誌『地域研究』（和文雑誌部会）

【昨年度刊行分】（昨年度の年次集会以降の刊行分）

第 11 巻第 1 号（2011 年 3 月発行）

特集 1 金門島研究—その動向と可能性

中国・廈門の沖合いに浮かぶ台湾領・金門島。軍事最前線として歴史の中に封じ込められてきたこの島が、いま注目されている。

特集 2 メディエーションとしての地域研究

「よそ者」としての地域研究者が、いかに地域に貢献できるのか。

第 10 巻第 2 号（2010 年 3 月発行）

総特集 災害と地域研究

特集 1 災害がひらく社会／特集 2 災害がつなぐ社会

2004 年スマトラ沖地震・津波の経験から、地域研究が災害復興にいかにも貢献できるかを展望する。「災害によって世界に開かれた地域」「災害によって世界と結びつきを強める地域」という二つの軸から考察する。

【今年度の刊行予定】

第 12 巻第 1 号

総特集 中東から変わる世界

第 12 巻第 2 号

総特集 地域研究方法論

地域研究コンソーシアム賞

(2)JCAS コラボレーション・シリーズ（運営委員長）

JCAS が主催・共催した研究集会などの内容を会場に来られなかった人たちにも伝えるために編まれる報告書。2010 年度の年次集会以降に 1 号、2011 年度に 2 号刊行した。

No.1（2011 年 3 月発行）

田中英式・宮原暁・山本博之共編

『ASEAN・中国：19 億人市場の誕生とその衝撃』

内容：

はしがき

宮原暁（JCAS 研究交流促進部会／大阪大学グローバルコラボレーションセンター）

「ACFTA から見る中国－ASEAN 関係の現在と日本への影響」

<p>田中英式（愛知大学経営学部・国際中国学研究センター）</p> <p>シンポジウムの記録</p> <p>発行： 地域研究コンソーシアム 京都大学地域研究統合情報センター 愛知大学国際中国学研究センター</p>
<p>No.2（2011年8月発行）</p> <p>西芳実 編著、堀場明子・堀抜功二・岩坂将充・木下博子・日下部尚徳著</p> <p>『キャリア・パスとしての社会貢献？ 若手地域研究者の現状と社会連携の可能性』</p> <p>内容： 刊行にあたって 山本博之（JCAS 運営委員長／日本マレーシア学会） 「キャリア・パスとしての社会貢献？ 若手地域研究者の現状と社会連携の可能性」 西芳実（JCAS／日本マレーシア学会）</p> <p>ワークショップの記録</p> <p>参考資料</p> <p>発行： 地域研究コンソーシアム 京都大学地域研究統合情報センター 大阪大学グローバルコラボレーションセンター 上智大学アジア文化研究所</p>
<p>No.3（2011年9月発行）</p> <p>西芳実・山本博之編</p> <p>『中東から変わる世界』</p> <p>内容： 「地域の知」—想定外に対応する地域研究を求めて 山本博之（JACS 運営委員長／日本マレーシア学会） 「地域の知」をつなぐ試み—中東政変を手掛かりに 西芳実（日本マレーシア学会）</p> <p>シンポジウムの記録（第1セッション） シンポジウムの記録（第2セッション）</p> <p>発行： 地域研究コンソーシアム 京都大学地域研究統合情報センター</p>

(3) ニュースレター（広報部会）

第10号を2011年3月に、第11号を2011年10月に刊行し、加盟機関の構成員に送付した。次号は2011年3月に刊行予定。2000部を印刷し、約1150部を配布した。残部を利用希望の方は事務局まで。

(4) ホームページ（広報部会）

今期より設置された部会のページを新設し、既存の部会の活動を整理して紹介するためのページのリニューアルを行った。大きな変更点は、JCAS活動紹介のページに部会・研究会のタグをつけ、どのページからもアクセスしやすいように改めたこと。

(5)メールマガジン（事務局）

地域研究の最前線を速報する媒体として立ち上げられたメールマガジンは、2010年11月7日から2011年11月4日までの間に臨時号12回を含む70回発行され、地域研究コンソーシアム関連行事の告知や地域研究コンソーシアムが広報協力を行う企画などの広報に広く利用された。発信は毎週定期的に行われている。

(6)後援、協力、広報協力、協賛などの実施（運営委員会、事務局）

加盟組織が主催するシンポジウムや研究会、公募などについて、JCAS ホームページを通じて広報協力を行った。2010年11月からの1年間に、計101件（イベント情報76件、公募16件、出版9件）を実施した。

(7)公募プログラム用リーフレット作成（広報部会）

昨年度より公募が開始された共同企画研究、共同企画講義、学会連携プログラム、オンデマンド・セミナーに加えて、以前から行われている次世代支援プログラムの公募を周知するためのリーフレットを作成した。すべての加盟機関の構成員に送付した。必要な方は事務局まで。

(8)要覧作成（広報部会）

新しい要覧を作成した。

(9)コンソーシアム・ウィーク用広報資料作成（広報部会）

今年度の年次集会の前後にJCAS 関連のイベントが連続するため、コンソーシアム・ウィークとしてポスターおよびちらしを作成し、関連機関に配布して周知に努めた。

(10)地域研究コンソーシアム賞（JCAS 賞検討部会）

今年度より地域研究コンソーシアム賞（以下JCAS 賞）が設立され、コンソーシアム加盟組織はもとより、広く大学、地域研究関係者および関係組織に広報した。5月に応募を締め切り、部会及び事務局のもとで選考過程を進めてきた。受賞者は年次集会で報告される。

3. 来年度にむけて——総括と展望

- (1)東日本大震災や「アラブの春」のような「想定外」の事態に対し、JCAS のネットワークを活用して迅速に対応した
- (2)幹事組織の拡大と多様化により活動の幅が大きく広がった。
- (3)多種多様な公募プログラムの導入により、加盟組織を広く巻き込む活動メニューを提供した。
- (4)部会化された情報資源と社会連携に関する JCAS 全体での取り組みの具体化をはかる。
- (5)加盟組織および非加盟組織に対する JCAS 賞を含めた広報活動の一層の充実をはかる。
- (6)学会を含む JCAS 内外の地域研究関連組織との連携の強化をはかる。

●:幹事組織、*:2011年度新規加盟組織

	組織名称
1	北海道大学スラブ研究センター ●
2	新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」
3	北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」
4	東北大学東北アジア研究センター ●
5	富山大学極東地域研究センター
6	宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所
7	宮城学院女子大学国際文化学科
8	明治大学軍縮平和研究所
9	上智大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻
10	上智大学アジア人材養成研究センター
11	上智大学アジア文化研究所 ●
12	上智大学イベロアメリカ研究所 ●
13	慶応義塾大学東アジア研究所
14	東洋大学アジア文化研究所
15	アジア・バロメーター・プロジェクト
16	新潟県立大学 東京サテライト
17	東京大学東洋文化研究所
18	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻
19	東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻
20	東京大学大学院総合文化研究科附属 アメリカ太平洋地域研究センター
21	ユーラシア研究所
22	早稲田大学アジア研究機構
23	法政大学大学院国際文化研究科
24	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学専攻
25	立教大学アジア地域研究所
26	学習院大学東洋文化研究所
27	東京外国語大学大学院地域文化研究科
28	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 ●
29	東京外国語大学:史資料ハブ地域文化研究拠点
30	一橋大学経済研究所
31	日本大学生物資源科学部国際地域研究所
32	日本貿易振興機構 アジア経済研究所
33	東京大学 空間情報科学研究センター
34	筑波大学大学院人文社会科学部国際地域研究専攻
35	筑波大学北アフリカ研究センター
36	宇都宮大学大学院国際学研究所
37	日本大学国際関係学部国際関係研究所
38	静岡県立大学大学院国際関係学研究所附属 グローバル・スタディーズ研究センター
39	名古屋大学大学院経済学研究科附属 国際経済政策研究センター
40	名古屋大学法政国際教育協力研究センター
41	名古屋市立大学人文社会学部国際文化学科
42	愛知大学国際中国学研究センター(ICCS) ●
43	愛知大学国際問題研究所
44	大阪大学世界言語研究センター ●
45	大阪大学グローバルコラボレーションセンター ●
46	大阪大学大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻
47	人間文化研究機構国立民族博物館 ●
48	大阪経済法科大学アジア研究所
49	同志社大学アメリカ研究所
50	同志社大学一神教学際研究センター
51	同志社大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科
52	人間文化研究機構総合地球環境学研究所 中国環境問題研究拠点
53	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
54	京都大学人文科学研究所人文学国際研究センター
55	京都大学地域研究統合情報センター ●
56	京都大学東南アジア研究所 ●
57	京都大学グローバルCOEプログラム 「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」
58	京都大学防災研究所

地域研究コンソーシアム加盟組織一覧(2011年11月4日現在)

59	京都外国語大学京都ラテンアメリカ研究所 ●
60	京都外国語大学国際言語平和研究所
61	鳥取大学乾燥地研究センター
62	島根県立大学 北東アジア地域研究センター(NEARセンター)
63	高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科
64	九州大学韓国研究センター
65	九州大学熱帯農学研究センター
66	長崎大学熱帯医学研究所
67	長崎大学グローバルCOEプログラム 「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」
68	立命館アジア太平洋大学
69	鹿児島大学大学院 人文社会科学研究科地域政策科学専攻
70	鹿児島大学国際島嶼教育研究センター(旧鹿児島大学多島圏研究センター)
71	琉球大学熱帯生物圏研究センター
72	財団法人 アジア政経学会
73	アメリカ学会
74	日本中東学会
75	日本現代中国学会
76	日本ラテンアメリカ学会
77	東南アジア学会
78	日本熱帯生態学会
79	日本カナダ学会
80	日本アフリカ学会
81	日本マレーシア学会 ●
82	The Japanese Society for Slavic and East European Studies (日本スラブ東欧学会)
83	ジャパン・プラットフォーム ●
84	財団法人東洋文庫 現代中国研究資料室
85	特定非営利活動法人 HANDS
86	独立行政法人国際交流基金日本研究・知的交流部
87	特定非営利活動法人 アジア・アフリカ研究所
88	(独)森林総合研究所 国際連携推進拠点
89	世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業 「人道支援に対する地域研究からの国際協力と評価 ―被災社会との共生を実現する復興・開発をめざして―
90	NPO平和環境もやいネット
91	日本華僑華人学会 *
92	大阪大学中国文化フォーラム *
93	日本南アジア学会 *

●理事会

氏名	所属
宮崎恒二(会長)	日本マレーシア学会
林行夫(副会長)	京都大学地域研究統合情報センター
望月哲男	北海道大学スラブ研究センター
佐藤源之	東北大学東北アジア研究センター
栗原浩英	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
清水展	京都大学東南アジア研究所
栗本英世	大阪大学グローバルコラボレーションセンター
寺田勇文	上智大学アジア文化研究所
平野克己	日本貿易振興機構アジア経済研究所
西尾 哲夫	人間文化研究機構国立民族学博物館
油井大三郎	アメリカ学会
高橋五郎	愛知大学国際中国学研究センター
南田みどり	大阪大学世界言語研究センター
大垣貴志郎	京都外国語大学 京都ラテンアメリカ研究所

●運営委員会

氏名	所属
山本博之(委員長)	日本マレーシア学会
帯谷知可(事務局長)	京都大学地域研究統合情報センター
福武慎太郎(副委員長)	上智大学アジア文化研究所
家田修	北海道大学スラブ研究センター
野町素己	北海道大学スラブ研究センター
上野稔弘	東北大学東北アジア研究センター
塩谷昌史	東北大学東北アジア研究センター
太田信宏	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
錦田愛子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
マウロ・ネーヴェス	上智大学イベロアメリカ研究所
李春利	愛知大学国際中国学研究センター
田中 英式	愛知大学国際中国学研究センター
マリオ・ロペズ	京都大学東南アジア研究所
甲山治	京都大学東南アジア研究所
貴志俊彦	京都大学地域研究統合情報センター
柳澤雅之	京都大学地域研究統合情報センター
西芳実	日本マレーシア学会
阿部健一	人間文化研究機構総合地球環境学研究所
立岩礼子	京都外国語大学 京都ラテンアメリカ研究所
住田育法	京都外国語大学 京都ラテンアメリカ研究所
古谷大輔	大阪大学世界言語研究センター
酒井裕美	大阪大学世界言語研究センター
三尾稔	人間文化研究機構国立民族学博物館
丹羽典生	人間文化研究機構国立民族学博物館
宮原暁	大阪大学グローバルコラボレーションセンター
中川理	大阪大学グローバルコラボレーションセンター

●理事会

2011年5月16日	京都大学稲盛財団記念館
2011年11月5日	大阪大学豊中キャンパス文系総合研究棟

●運営委員会

2011年3月7日	京都大学東京オフィス
2011年5月10日	京都大学稲盛財団記念館
2011年7月8日	東京外国語大学本郷サテライト
2011年11月4日	大阪大学豊中キャンパス待兼山会館

●研究企画部会

2011年8月6日	東北大学東京分室
-----------	----------

●次世代支援部会

2011年7月8日	東京外国語大学サテライト
-----------	--------------

●研究交流促進部会

2011年4月17日	京都大学
2011年7月8日	東京外国語大学サテライト

●社会連携部会

2011年7月8日	東京外国語大学サテライト
-----------	--------------

●「地域の知」シンポジウム

2011年4月16日 ～17日	「地域の知」シンポジウム「中東から変わる世界」	運営委員会
--------------------	-------------------------	-------

●年次集会シンポジウム

2011年11月5日	「情報災害」からの復興—地域の専門家は震災にどう対応するか	研究企画部会・社会連携部会
------------	-------------------------------	---------------

●情報資源セミナー

2011年10月1日	データベース構築ガイダンス	情報資源部会
------------	---------------	--------

●次世代地域研究ワークショップ(2010年度実施分)

2011年1月22日	来たるべき『ブラジル研究』にむけて—政治経済の変化がもたらすもの	次世代支援部会
2011年1月22日 ～23日	いま、『中東和平』をどう捉えるか—パレスチナ／イスラエル問題の構図と展開—	次世代支援部会
2011年1月29日	トランスナショナルな子どもたちの教育を考える	次世代支援部会

●共同企画研究(2010年度実施分)

2010年12月2日 ～3日	国際シンポジウム「メキシコの歴史と現在を考える～あらたなメキシコ史研究の可能性」	研究交流促進部会
2011年3月19日 ～20日	Vulnerable Filipino Migrants: Focus on Japan	研究交流促進部会
2011年3月22日 ～24日	遊牧の世界と「ニンジャ」たち—民主化以降のモンゴルの生存基盤を考える	研究交流促進部会

●共催企画

2011年6月22日、7月13日、8月24日、10月26日、12月21日、2012年1月25日	民族誌映像ビデオ実習講座	東北大学東北アジア研究センター
2011年10月15日 ～16日	ジャウイ文献講読講習会	日本マレーシア学会
2011年11月4日	地域研究のたまし絵—「グローバル化」の後に「地域」への眼差しを再考する	大阪大学

●学会連携

2011年10月1日 ～2日	日本南アジア学会第24回全国大会におけるJCAS加盟組織共同による複数のセッション企画	研究交流促進部会
-------------------	---	----------

●社会連携

2011年11月5日	3・11被災後のディアスポラ・コミュニティにおけるコミュニケーションの総合的研究	社会連携部会
------------	--	--------

●次世代支援部会「地域研究次世代ワークショップ」

2010年度採択(4件)

企画名	NGOの時代は終わったのかー成熟するアジアの市民社会と日本のNGOの未来ー
企画責任者	堀場明子(上智大学アジア文化研究所・客員研究員)

企画名	来たるべき『ブラジル研究』にむけてー政治経済の変化がもたらすものー
企画責任者	高橋慶介(一橋大学大学院・社会学研究科博士課程)

企画名	いま、『中東和平』をどう捉えるかーパレスチナ／イスラエル問題の構図と展開ー
企画責任者	今野泰三(大阪市立大学大学院・文学研究科博士課程)

企画名	トランスナショナルな子どもたちの教育を考える
企画責任者	矢元貴美(大阪大学大学院・人間科学研究科博士課程)

2011年度採択(7件)

企画名	イスラームが経済に与えるインパクトーイスラームの視点と経済の視点から
共催	京都大学地域研究統合情報センター
企画責任者	福島康博(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・研究機関研究員)

企画名	「人間と動物の境界」は地域研究の対象たりえるのか?ーアフリカとメラネシアからの発信
共催	北海道大学GCOE(境界研究の拠点形成)
企画責任者	田所聖志(東京大学大学院医学系研究科・特任助教)

企画名	文明の境界、政治の限界ー比較の中のパレスチナ／イスラエル複合紛争
共催	北海道大学GCOE(境界研究の拠点形成)
企画責任者	飛奈裕美(京都大学・日本学術振興会特別研究員)

企画名	東南アジアにおける「地域」とは何か?
共催	京都大学東南アジア研究所
企画責任者	伊藤未帆(日本学術振興会特別研究員)

企画名	地域研究とキャリアパスー地域研究者の社会連携を目指してー
共催	京都大学地域研究統合情報センター
企画責任者	日下部尚徳(大阪大学大学院人間科学研究科・日本学術振興会特別研究員)

企画名	墓場で／から繋がるー墓石をめぐる学術的研究の可能性
共催	京都大学地域研究統合情報センター
企画責任者	小西公大(東京外国語大学現代インド研究センター・特定研究員／人間文化研究機構地域研究推進センター・研究員)

企画名	大阪のトランスナショナルな子どもたちの教育を考える
共催	大阪大学グローバルコラボレーションセンター
企画責任者	矢元貴美(大阪大学大学院・人間科学研究科博士課程)

●研究交流促進部会

「共同企画研究プログラム」(1件)

企画名	現代中国と東アジアの新環境(萌芽)
期間	2011/11/4～2012/3/31
実施場所	大阪大学
企画責任者	田中仁(大阪大学中国文化フォーラム・教授)

「共同企画講義プログラム」(2件)

企画名	〈カストロフィ〉を生きるー地域文化研究から見る災いの経験(本企画)
期間	2011/10/1～2012/3/31
実施大学	東京大学教養学部
企画責任者	西芳実(京都大学地域研究統合情報センター・准教授)

企画名	「最先端の地域研究者によるエスノグラフィ論特別講義」(萌芽企画)
期間	2011/9/1～2012/3/31

実施大学	大阪大学グローバルコラボレーションセンターおよび協力者の所属組織
企画責任者	宮原暁(大阪大学GLOCOL・准教授)、中川理(大阪大学GLOCOL・特任准教授)

「学会連携プログラム」(1件)

企画名	日本南アジア学会第24回全国大会におけるJCAS加盟組織共同による複数のセッション企画
期間	2011/10/1~2011/10/2
主催学会	大阪大学世界言語研究センター日本南アジア学会
企画責任者	秋田茂(大阪大学大学院文学研究科・教授)

●社会連携部会「東日本大震災に伴う共同研究」(1件)

企画名	3・11被災後のディアスポラ・コミュニティにおけるコミュニケーションの総合的研究
期間	2011/7/25~2012/3/31
共催	京都大学地域研究統合情報センター
企画責任者	中島成久(法政大学国際文化学部・教授)

●共催(3件)

企画名	民族誌映像ビデオ実習講座
期間	6/22、7/13、8/24、10/26、12/21、1/25実施
企画責任者	高倉浩樹(東北大学東北アジア研究センター・准教授)

企画名	ジャウイ文献講読講習会
期間	2011/10/15~10/16日実施
企画責任者	坪井祐司(日本マレーシア学会・運営委員)

企画名	福祉と開発の人類学:ひろがる包摂空間とライフコース
期間	2012/1/21
主催	国立民族学博物館
企画責任者	内藤直樹(徳島大学・准教授)

●地域研究

第11巻第1号	第11巻第2号	第12巻第1号	第12巻第2号
2011年3月発行	2011年3月発行	2011年刊行予定	2011年刊行予定
特集1 金門島研究——その動向と可能性 特集2 メディエーションとしての地域研究	総特集 災害と地域研究 特集1 災害がひらく社会 特集2 災害がつなぐ社会	特集 中東から変わる世界	特集 地域研究方法論
			

●JCAS Collaboration Series

JCAS Collaboration	JCAS Collaboration	JCAS Collaboration
2011年3月	2011年8月	2011年9月
ASEAN・中国 19億人市場の	キャリア・パスとしての社会 貢献？ 若手地域研究者の 現状と社会連携の可能性	中東から変わる世界
		

●ニューズレター

JCAS共同企画研究シンポジウム報告
2011年3月
ASEAN・中国 19億人市場の誕生とその衝撃

●要覧

地域研究コンソーシアム
2011年3月


●その他

企画募集リーフレット
2010年度版